

東京海上・先進国好利回り CBファンド2024-03 (為替ヘッジなし)(限定追加型)

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（転換社債） (課税上は株式投資信託として取扱われます。)	
信託期間	2024年3月26日から2028年1月7日	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。	
主要投資対象	東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03(為替ヘッジなし)(限定追加型)	「東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03」を主要投資対象とします。
	東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03	先進国の企業が発行する米ドル、ユーロおよび英ポンド建ての転換社債等を主要投資対象とします。
投資制限	東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03(為替ヘッジなし)(限定追加型)	・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03	・株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の、繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等から、基準価額の水準、市況動向等を勘案して分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないことがあります。 収益の分配に充当せず、信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。	

第1期 運用報告書（全体版） (決算日 2025年1月7日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、「東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03(為替ヘッジなし)(限定追加型)」は、このたび、第1期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング

お問い合わせ窓口
東京海上アセットマネジメント サービスデスク 0120-712-016
受付時間：営業日の9時～17時
<https://www.tokiomarineam.co.jp/>

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			新株予約権付社債 (転 換 社 債) 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金	期 騰 落 中 率	
(設定日)	円			円	%	百万円
2024年3月26日	10,000			—	—	1,446
1期(2025年1月7日)	11,399			0	14.0	1,669

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「新株予約権付社債(転換社債)組入比率」は実質比率を記載しています。

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		新株予約権付社債 (転 換 社 債) 組 入 比 率
		騰 落	率	
(設定日)	円		%	%
2024年3月26日	10,000	—	—	—
3月末	10,027	0.3		86.7
4月末	10,304	3.0		99.1
5月末	10,442	4.4		99.1
6月末	10,748	7.5		98.4
7月末	10,385	3.9		98.8
8月末	10,121	1.2		99.0
9月末	10,167	1.7		98.2
10月末	10,935	9.4		98.3
11月末	10,840	8.4		96.6
12月末	11,361	13.6		97.8
(期 末)				
2025年1月7日	11,399	14.0		96.9

(注) 騰落率は設定日比です。

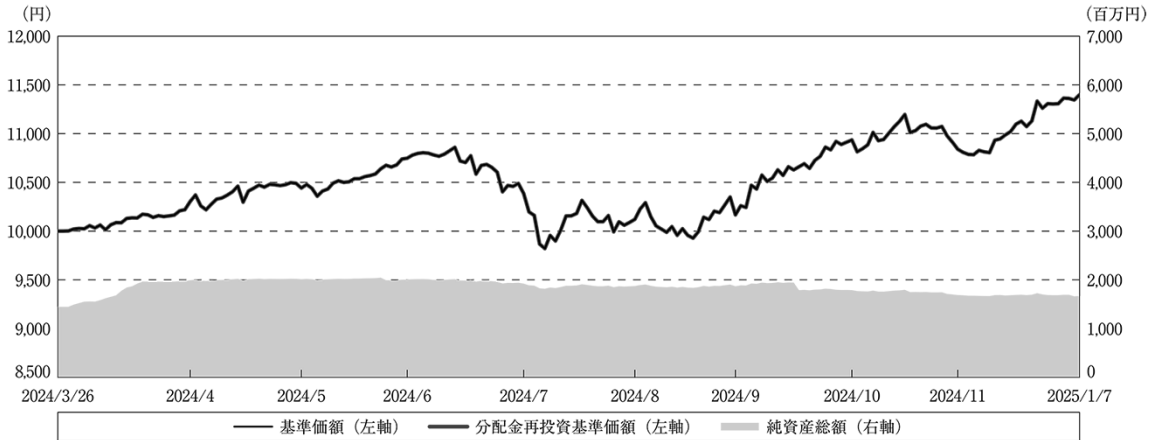
(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「新株予約権付社債(転換社債)組入比率」は実質比率を記載しています。

当ファンドにベンチマークはなく、また当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数もないため、ベンチマーク、参考指数を記載していません。

○運用経過

(2024年3月26日～2025年1月7日)

■期中の基準価額等の推移



設定日：10,000円

期 末：11,399円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 14.0% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・保有CB(転換社債)からの利息収入
- ・堅調な企業業績などを背景に株式市場が上昇基調で推移したこと
- ・期を通して円安米ドル高が進行したこと

マイナス要因

- ・期末にかけて米国で利下げペース鈍化への懸念などを背景に、長期金利が上昇したこと

■投資環境

【CB市場】

当期のCB市場は上昇しました。米国においてインフレ率の下げ渋りや堅調な雇用統計を背景に早期利下げ観測が後退し長期金利が上昇するなか、株式市場の下落にも影響を受けて、CB市場は下落する場面もありましたが、主要中央銀行による利下げへの期待や企業業績の伸びなどを手掛かりに株高基調が続いたことなどから、期初からおおむね上昇基調で推移しました。期末にかけては、FOMC(米連邦公開市場委員会)で先行きの利下げペースが鈍化する見通しが示されたことから長期金利が上昇し、株式市場が反落するなかCB市場も軟調な推移に転じましたが、期を通じてみると、株高基調が持続したことや信用スプレッド(利回り格差)の縮小など環境面で追い風が吹き、CB市場は堅調に推移しました。

【為替市場】

米ドル円為替レートは円安米ドル高となりました。期前半、米国政策金利の高止まりなどを背景に円安米ドル高基調が続きましたが、2024年7月中旬から9月半ばにかけて米国の景気後退が懸念されるなか、日銀による追加利上げも重しとなり、円キャリートレード（低金利の円で資金調達して高金利通貨で運用すること）の巻き戻し（解消）とともに、円高米ドル安が急速に進行しました。その後期末にかけては、日銀の追加利上げを急がない姿勢に変更がなかったことや、米国でインフレ再燃の可能性も残るなか、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融緩和ペースが鈍るとの懸念が広がったことなどから、米ドル円為替レートはおおむね円安基調で推移しました。

英ポンド円為替レートも円安となった一方で、ユーロ円為替レートはおおむね横ばいとなりました。

■ポートフォリオについて

<東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03（為替ヘッジなし）（限定追加型）>

「東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持しました。

当ファンドの基準価額は、マザーファンドの値動きを反映し、14.0%上昇しました。

<東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03>

先進国の企業が発行するCBのなかから、相対的に利回りが高く投資魅力度が高いと判断し、信託期間内に償還を迎える銘柄に投資を行いました。

一部の銘柄に関して、発行体による買い戻しや利益確定および信用力への懸念などから売却等を行うなか、期を通じては多くの銘柄がプラス寄与となりました。

以上の運用の結果、保有銘柄の価格上昇や利息収入、円安の進行などがプラスに寄与し、基準価額は15.0%上昇しました。

■当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けていません。

また、当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる参考指数もないため、記載する事項はありません。

■分配金

当期においては、運用の効率性などを勘案して、収益分配を行わないこととしました。収益分配に充てなかった収益については信託財産内に留保し、当ファンドの運用方針に基づいて運用を行います。

◇分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第1期
	2024年3月26日～ 2025年1月7日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,398

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03(為替ヘッジなし)(限定追加型)>

「東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持します。

<東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03>

地域ごとの差はあるものの、世界的にインフレが収束しつつあり、主要中央銀行が金融緩和を開始していることなどから、世界経済は引き続き堅調に推移すると見ています。

債券市場では、金融緩和の影響が織り込まれつつある環境下、長期金利はレンジを切り下げながら緩やかな低下が続く可能性が高いと考えています。

株式市場では、大型成長株への一極集中が顕著でしたが、今後は広範なセクター、またCBとの関連が深い中小型株にもより多くの収益機会が訪れる可能性があり、分散投資を行う重要性が高まっていると考えます。加えて、借り換えや企業買収などによる償還といった個別要因も、引き続きポートフォリオのパフォーマンスに好影響を与える可能性が高く、CB市場の投資機会について、引き続き前向きな見方を維持しています。

このような環境下、引き続き投資地域や業種の分散を図りながら、信用リスクを勘案して相対的に利回りの高い銘柄を中心に、償還まで保有することを基本とします。発行企業の財務健全性や成長性を綿密に評価し、株価との連動性も考慮に入れた銘柄選別を行い、下方リスクに対しても慎重にモニタリングする方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2024年3月26日～2025年1月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 94	% 0.890	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(64)	(0.608)	* 委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価
(販 売 会 社)	(27)	(0.260)	* 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	* 運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.016	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.007)	* 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.009)	* 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	* その他は、信託事務等に要する諸費用
合 計	96	0.906	
期中の平均基準価額は、10,533円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

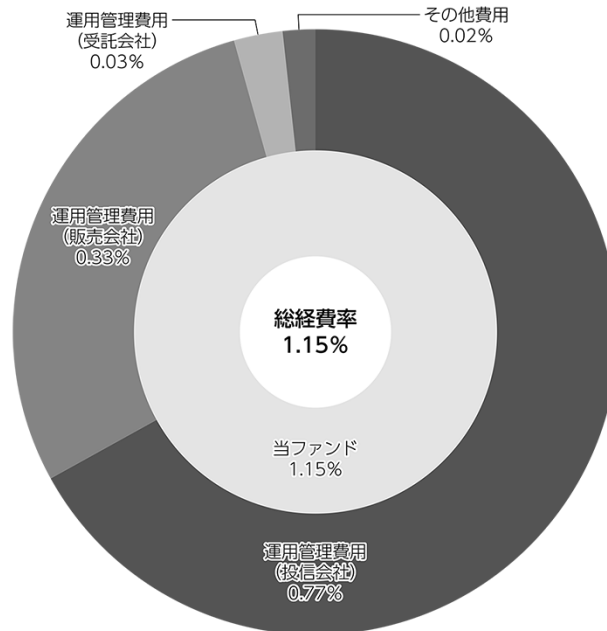
(注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.15%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2024年3月26日～2025年1月7日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03		1,935,386	1,939,143	483,443	522,555

○利害関係人との取引状況等

(2024年3月26日～2025年1月7日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年1月7日現在)

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
		千口	千円
東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03		1,451,943	1,669,880

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2025年1月7日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03	1,669,880	98.0
コール・ローン等、その他	34,395	2.0
投資信託財産総額	1,704,275	100.0

(注) 東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03において、当期末における外貨建純資産(6,314,753千円)の投資信託財産総額(6,400,226千円)に対する比率は98.7%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値で邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは1米ドル=158.22円、1ユーロ=164.30円、1英ポンド=198.00円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年1月7日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,704,275,563
東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03(評価額)	1,669,880,131
未収入金	34,395,432
(B) 負債	34,395,432
未払解約金	28,647,495
未払信託報酬	5,692,446
その他未払費用	55,491
(C) 純資産総額(A－B)	1,669,880,131
元本	1,464,983,280
次期繰越損益金	204,896,851
(D) 受益権総口数	1,464,983,280口
1万口当たり基準価額(C／D)	11,399円

- (注) 当ファンドの設定時元本額は1,446,744,574円、期中追加設定元本額は488,830,537円、期中一部解約元本額は470,591,831円です。
- (注) 上記表中の次期繰越損益金が△表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。
- (注) 上記表中の1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況 (2024年3月26日～2025年1月7日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	218,922,597
売買益	252,046,981
売買損	△ 33,124,384
(B) 信託報酬等	△ 16,730,705
(C) 当期損益金(A＋B)	202,191,892
(D) 追加信託差損益金	2,704,959
(売買損益相当額)	(2,704,959)
(E) 計(C＋D)	204,896,851
(F) 収益分配金	0
次期繰越損益金(E＋F)	204,896,851
追加信託差損益金	2,704,959
(配当等相当額)	(1,326,284)
(売買損益相当額)	(1,378,675)
分配準備積立金	202,191,892

- (注) (A) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) (B) 信託報酬等は、消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注) (D) 追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分です。
- (注) 信託財産の運用指図に係る権限の全部または一部を委託するために要した費用として、このファンドが組み入れている親投資信託の純資産総額に対して年1万分の35の率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しています。
- (注) 分配金の計算過程は以下の通りです。

項 目	当 期
a. 配当等収益(費用控除後)	44,379,417円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	157,812,475円
c. 信託約款に規定する収益調整金	2,704,959円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	0円
e. 分配対象収益(a＋b＋c＋d)	204,896,851円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1,398円
g. 分配金	0円
h. 分配金(1万口当たり)	0円

東京海上・先進国好利回りCBマザーファンド2024-03

運用報告書 第1期（決算日 2025年1月7日）

（計算期間 2024年3月26日～2025年1月7日）

ここに、法令・諸規則に基づき、当マザーファンド（親投資信託）の直前の計算期間にかかる運用状況をご報告申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		新株予約権付社債 （ 転 換 社 債 ） 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率		
（設定日） 2024年3月26日	円 10,000		% —	% —	百万円 4,732
1期(2025年1月7日)	11,501		15.0	96.9	6,351

（注）設定日の基準価額は、設定時の価額です。

（注）設定日の純資産総額は、設定元本を表示しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		新株予約権付社債 （ 転 換 社 債 ） 組 入 比 率
		騰 落	率	
（設定日） 2024年3月26日	円 10,000		% —	% —
3月末	10,028		0.3	86.7
4月末	10,315		3.2	99.0
5月末	10,463		4.6	99.0
6月末	10,779		7.8	98.2
7月末	10,427		4.3	98.4
8月末	10,172		1.7	98.5
9月末	10,228		2.3	98.2
10月末	11,011		10.1	98.2
11月末	10,925		9.3	96.4
12月末	11,460		14.6	97.5
（期 末） 2025年1月7日	11,501		15.0	96.9

（注）騰落率は設定日比です。

当ファンドにベンチマークはなく、また当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数もないため、ベンチマーク、参考指数を記載していません。

○運用経過

(2024年3月26日～2025年1月7日)

■期中の基準価額等の推移

設定日：10,000円

期 末：11,501円

騰落率： 15.0%

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・保有CB（転換社債）からの利息収入
- ・堅調な企業業績などを背景に株式市場が上昇基調で推移したこと
- ・期を通して円安米ドル高が進行したこと

マイナス要因

- ・期末にかけて米国で利下げペース鈍化への懸念などを背景に、長期金利が上昇したこと



■投資環境

【CB市場】

当期のCB市場は上昇しました。米国においてインフレ率の下げ渋りや堅調な雇用統計を背景に早期利下げ観測が後退し長期金利が上昇するなか、株式市場の下落にも影響を受けて、CB市場は下落する場面もありましたが、主要中央銀行による利下げへの期待や企業業績の伸びなどを手掛かりに株高基調が続いたことなどから、期初からおおむね上昇基調で推移しました。期末にかけては、FOMC（米連邦公開市場委員会）で先行きの利下げペースが鈍化する見通しが示されたことから長期金利が上昇し、株式市場が反落するなかCB市場も軟調な推移に転じましたが、期を通じてみると、株高基調が持続したことや信用スプレッド（利回り格差）の縮小など環境面で追い風が吹き、CB市場は堅調に推移しました。

【為替市場】

米ドル円為替レートは円安米ドル高となりました。期前半、米国政策金利の高止まりなどを背景に円安米ドル高基調が続きましたが、2024年7月中旬から9月半ばにかけて米国の景気後退が懸念されるなか、日銀による追加利上げも重しとなり、円キャリートレード（低金利の円で資金調達して高金利通貨で運用すること）の巻き戻し（解消）とともに、円高米ドル安が急速に進行しました。その後期末にかけては、日銀の追加利上げを急がない姿勢に変更がなかったことや、米国でインフレ再燃の可能性も残るなか、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融緩和ペースが鈍るとの懸念が広がったことなどから、米ドル円為替レートはおおむね円安基調で推移しました。

英ポンド円為替レートも円安となった一方で、ユーロ円為替レートはおおむね横ばいとなりました。

■ポートフォリオについて

先進国の企業が発行するCBのなかから、相対的に利回りが高く投資魅力度が高いと判断し、信託期間内に償還を迎える銘柄に投資を行いました。

一部の銘柄に関して、発行体による買い戻しや利益確定および信用力への懸念などから売却等を行うなか、期を通じては多くの銘柄がプラス寄与となりました。

以上の運用の結果、保有銘柄の価格上昇や利息収入、円安の進行などがプラスに寄与し、基準価額は15.0%上昇しました。

○今後の運用方針

地域ごとの差はあるものの、世界的にインフレが収束しつつあり、主要中央銀行が金融緩和を開始していることなどから、世界経済は引き続き堅調に推移すると見ています。

債券市場では、金融緩和の影響が織り込まれつつある環境下、長期金利はレンジを切り下げながら緩やかな低下が続く可能性が高いと考えています。

株式市場では、大型成長株への一極集中が顕著でしたが、今後は広範なセクター、またCBとの関連が深い中小型株にもより多くの収益機会が訪れる可能性があり、分散投資を行う重要性が高まっていると考えます。加えて、借り換えや企業買収などによる償還といった個別要因も、引き続きポートフォリオのパフォーマンスに好影響を与える可能性が高く、CB市場の投資機会について、引き続き前向きな見方を維持しています。

このような環境下、引き続き投資地域や業種の分散を図りながら、信用リスクを勘案して相対的に利回りの高い銘柄を中心に、償還まで保有することを基本とします。発行企業の財務健全性や成長性を綿密に評価し、株価との連動性も考慮に入れた銘柄選別を行い、下方リスクに対しても慎重にモニタリングする方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年 3 月26日～2025年 1 月 7 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 1	% 0.008	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.007)	*保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	*その他は、信託事務等に要する諸費用
合 計	1	0.008	
期中の平均基準価額は、10,580円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2024年 3 月26日～2025年 1 月 7 日)

新株予約権付社債（転換社債）

		買 付		売 付	
		額 面	金 額	額 面	金 額
外 国	アメリカ	千米ドル 53,395	千米ドル 46,536	千米ドル 14,910	千米ドル 14,312
	ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ	千ユーロ
	ドイツ	1,800	1,522	—	—
	イギリス	千英ポンド 2,000	千英ポンド 1,569	千英ポンド 500	千英ポンド 425

(注) 金額は受渡代金です。（経過利子分は含まれていません）

○利害関係人との取引状況等

(2024年 3 月26日～2025年 1 月 7 日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2025年1月7日現在)

外国新株予約権付社債（転換社債）

銘柄		当 期 末		
		額 面 金 額	評 価 額	
			外貨建金額	邦貨換算金額
(アメリカ)		千米ドル	千米ドル	千円
WIX 0 08/15/25		1,700	1,649	261,039
MTN 0 01/01/26		2,260	2,155	341,039
HAE 0 03/01/26		1,820	1,727	273,389
CABO 0 03/15/26		1,000	932	147,540
MPUS 0 1/4 04/01/26		1,820	1,727	273,274
MTCH 0 7/8 06/15/26		650	613	97,063
W 1 08/15/26		2,020	1,885	298,246
JAMF 0 1/8 09/01/26		970	889	140,811
SEALTD 0 1/4 09/15/26		3,410	3,104	491,242
U 0 11/15/26		2,400	2,200	348,210
DOCN 0 12/01/26		2,490	2,224	352,010
PEB 1 3/4 12/15/26		890	831	131,536
CFLT 0 01/15/27		1,175	1,059	167,689
BXMT 5 1/2 03/15/27		2,300	2,225	352,079
SNAP 0 05/01/27		2,570	2,245	355,309
TDOC 1 1/4 06/01/27		2,460	2,167	342,903
RWT 7 3/4 06/15/27		2,090	2,059	325,884
CNMD 2 1/4 06/15/27		1,000	931	147,302
ETSY 0 1/8 09/01/27		460	399	63,155
SQ 0 1/4 11/01/27		2,100	1,838	290,812
VAC 3 1/4 12/15/27		2,500	2,341	370,432
QGEN 0 12/17/27		400	381	60,313
小 計	額 面 金 額	38,485	35,591	5,631,287
	銘 柄 数 < 比 率 >	22	—	<88.7%>
(ユーロ・・・ドイツ)		千ユーロ	千ユーロ	
DEHEHO 1 01/23/27		1,800	1,645	270,418
ユ ー ロ 計	額 面 金 額	1,800	1,645	270,418
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	—	<4.3%>
(イギリス)		千英ポンド	千英ポンド	
OCDOLN 0 3/4 01/18/27		1,500	1,278	253,229
小 計	額 面 金 額	1,500	1,278	253,229
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	—	<4.0%>
合 計	額 面 金 額	—	—	6,154,935
	銘 柄 数 < 比 率 >	24	—	<96.9%>

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値で邦貨換算したものです。
(注) 株式、新株予約権証券および株式の性質を有するオプション証券等の組み入れはありません。
(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

○投資信託財産の構成

(2025年 1 月 7 日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
新株予約権付社債(転換社債)	6,154,935	96.2
コール・ローン等、その他	245,291	3.8
投資信託財産総額	6,400,226	100.0

(注) 当期末における外貨建純資産 (6,314,753千円) の投資信託財産総額 (6,400,226千円) に対する比率は98.7%です。
(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値で邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは1米ドル=158.22円、1ユーロ=164.30円、1英ポンド=198.00円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2025年1月7日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	6,664,125,808
コール・ローン等	146,914,818
公社債(評価額)	6,154,935,970
未収入金	348,122,937
未収利息	13,991,093
前払費用	160,990
(B) 負債	312,821,200
未払金	263,900,824
未払解約金	48,920,376
(C) 純資産総額(A－B)	6,351,304,608
元本	5,522,389,277
次期繰越損益金	828,915,331
(D) 受益権総口数	5,522,389,277口
1万口当たり基準価額(C／D)	11,501円

(注) 当親ファンドの設定時元本額は4,732,829,439円、期中追加設定元本額は1,676,682,934円、期中一部解約元本額は887,123,096円です。

<元本の内訳>

東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03 (為替ヘッジあり) (限定追加型) 4,070,445,853円
東京海上・先進国好利回りCBファンド2024-03 (為替ヘッジなし) (限定追加型) 1,451,943,424円

(注) 上記表中の次期繰越損益金が△表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

(注) 上記表中の1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況 (2024年 3 月 26 日～2025年 1 月 7 日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	199,641,161
受取利息	199,638,738
その他収益金	2,423
(B) 有価証券売買損益	685,177,664
売買益	695,668,877
売買損	△ 10,491,213
(C) 保管費用等	△ 478,588
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	884,340,237
(E) 追加信託差損益金	10,303,152
(F) 解約差損益金	△ 65,728,058
(G) 計(D＋E＋F)	828,915,331
次期繰越損益金(G)	828,915,331

(注) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
(注) (E)追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分です。
(注) (F)解約差損益金は、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分です。